

# 土地分類基本調査

「御嶽山」「木曾福島」

5万分の1

国土調査

岐阜県

1998

# 序 文

この調査は、国土調査法に基づき国土の開発及び保全並びにその利用の高度化に資するために、国土の実態を科学的かつ総合的に調査したものです。

本県は、昭和57年度からこの調査を実施し、40の調査対象図幅のうち既に22図幅について印刷を完了しています。本書は、平成8年度から平成9年度にかけて調査した5万分の1地形図「御嶽山」、「木曾福島」について、「御嶽山」、「木曾福島」図幅として取りまとめたものです。

この調査の実施にあたって協力いただいた関係各位に対し深く感謝申し上げますとともに、この成果が今後、県土の秩序ある発展を図るための企画・立案の基礎資料として広く活用されることを希望します。

平成11年3月

岐阜県企画部長 日置 敏明

# ま え が き

1. 本調査は、岐阜県が国土庁土地局国土調査課の指導を得て、実施したものです。
2. 本調査の成果は、国土調査法施行令第2条第1項第4号の3の規定による土地分類基本調査図及び土地分類基本調査簿です。
3. 本調査の実施及び成果の作成機関並びに担当者は、下記のとおりです。

## 記

総括	岐阜県企画部地域振興課		
地形分類調査	岐阜大学教育学部	教授	関根 清
表層地質調査	〃	名誉教授	梶田 澄雄
	〃	助教授	小井土由光
土地利用 現況調査	岐阜大学農学部	助教授	木村 正信
土壌調査	岐阜県農業総合 研究センター	主任専門研究員	平 正博
	岐阜県林業センター (岐阜県森林科学研究所)	専門研究員	矢野 秀治
	〃	専門研究員	長谷川恵治
	〃	主任技師	茂木 靖和
		技師	井川原弘一

# 目 次

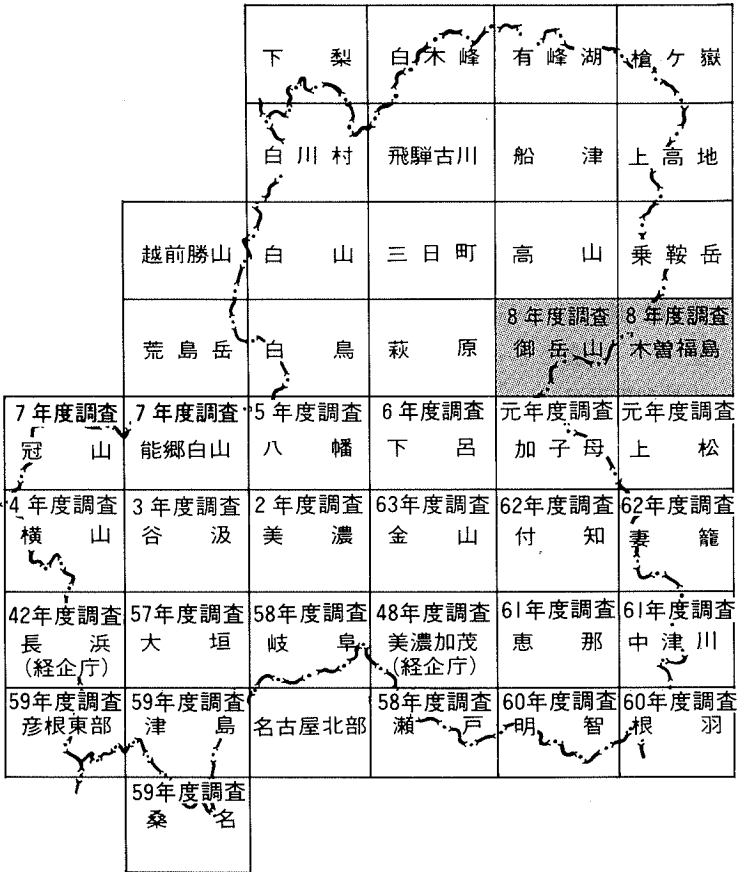
## 総 論

I 位置及び行政区画	1
II 人 口	2
III 産 業	4

## 各 論

I 地 形 分 類	9
II 表 層 地 質	15
III 土 壤	22
IV 土地利用現況	33

# 位置図



総

論

# I 位置及び行政区画

## 1. 位置

この調査の対象地域は、建設省国土地理院発行5万分の1地形図の「御嶽山」、「木曾福島」図幅である。

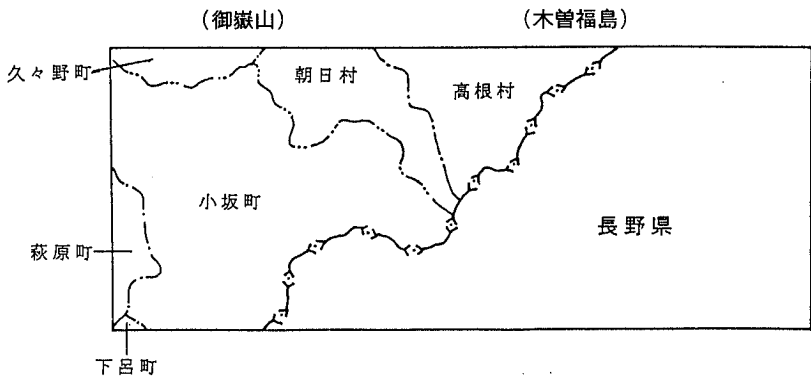
経緯度は、東経 $137^{\circ} 15'$ ～ $137^{\circ} 45'$ 、北緯 $35^{\circ} 50'$ ～ $36^{\circ} 00'$ の範囲である。

## 2. 行政区画

本図幅の行政区画は、萩原町、小坂町、下呂町、久々野町、朝日村、高根村の4町2村であり、それぞれの行政区画の一部からなっている。

(図-1 参照)

図-1 行政区画図



## Ⅱ 人 口

調査区域にかかる 4 町 2 村の人口は38,511人（平成 7 年国勢調査結果）で、県人口の1.8%を占めている。

これらの全町村では、昭和55年から平成 7 年までに1,140人減少している。

県平均で7.2%増加しているのに対し、2.9%の減少となっており、この地域全体で過疎化が進んでいる。

表一1 人口

行政区分	昭 和 55 年		昭 和 60 年		平 成 2 年	
	人 口 (人)	世帯数 (戸)	人 口 (人)	世帯数 (戸)	人 口 (人)	世帯数 (戸)
萩原町	11,349	2,877	11,578	2,960	11,522	3,118
小坂町	4,825	1,358	4,601	1,312	4,375	1,328
下呂町	15,554	4,562	15,430	4,712	15,568	4,927
久々野町	4,408	1,034	4,506	1,017	4,283	1,036
朝日村	2,401	622	2,324	601	2,231	618
高根村	1,114	370	1,020	348	913	323
計	39,651	10,823	39,459	10,950	38,892	11,350
県 計	1,960,107	539,740	2,028,536	567,946	2,066,569	602,906



なお、平成7年国勢調査結果によると、萩原町以外の町村では人口の減少傾向がみられ、うち2町村では昭和55年から平成7年までに10%以上の人口が減少している。(表-1)

平成7年		人口増減(人)			人口増減率(%)		
人口 (人)	世帯数 (戸)	55~60年	60~2年	2~7年	55~60年	60~2年	2~7年
11,679	3,340	229	△ 56	157	2.0	△ 0.5	1.4
4,183	1,323	△ 224	△ 226	△ 192	△ 4.6	△ 4.9	△ 4.4
15,438	5,103	△ 124	138	△ 130	△ 0.8	0.9	△ 0.8
4,178	1,023	98	△ 223	△ 105	2.2	△ 4.9	△ 2.5
2,177	612	△ 77	△ 93	△ 54	△ 3.2	△ 4.0	△ 2.4
856	335	△ 94	△ 107	△ 57	△ 8.4	△ 10.5	△ 6.2
38,511	11,736	△ 192	△ 567	△ 381	△ 0.5	△ 1.4	△ 1.0
2,100,315	645,341	68,429	38,033	33,746	3.5	1.9	1.6

資料 国勢調査結果による。

# Ⅲ 産 業

## 1 農林業

地域内の町村の総農家数は2,945戸で、これは県下総農家数の3.2%にあたり、専業農家の割合は県平均の4.8%を下回る3.9%となっている。また、経営耕地面積は1,799haで、県下総経営耕地面積の2.9%を占め、農業粗生産額は県下全体の3.2%となっている。

この地域の農業粗生産額の生産種別構成を県下全体と比較すると、米及び畜産がやや低く野菜が高くなっている。町村別の特色を農業粗生産額の構成比から見ると、大野郡の3町村において、トマト、だいこん、キャベツを中心とした野菜の構成比が5割程度と高くなっている。畜産については、萩原町、小坂町、下呂町を含む益田郡より北部において、鶏及び豚の家畜飼養戸数がほとんどなく、乳用牛、肉用牛で構成されている。

また、飼料作物である牧草等の収穫量も比較的多い。

その他の特色として、益田郡を境に大野郡以北については工芸作物である茶の生産を確認することができない。 (表-2)

表-2 農業の概要

区分 行政 区域	農 家 数				経営耕 地面積 (ha)	農業粗生産額 (百万円)				
	総 数 (戸)	専 業 (戸)	兼 業 (戸)	専業率 (%)		総 額	米	野菜	畜産	その他
萩原町	849	28	821	3.3	418	905	239	250	266	150
小坂町	238	11	227	4.6	113	259	43	102	94	20
下呂町	869	30	839	3.5	444	1,064	211	409	377	67
久々野村	479	10	469	2.1	368	1,167	149	618	114	286
朝日村	348	20	328	5.7	319	703	107	333	244	19
高根村	162	16	146	9.9	137	230	2	119	106	3
計	2,945	115	2,830	3.9	1,799	4,328	751	1,831	1,201	545
県 計	91,435	4,431	87,004	4.8	62,100	137,181	36,663	35,979	44,711	19,828

資料 岐阜県農林水産統計年報(平成9～10年)による。(農家数は、「1995年農業センサス」結果により、兼業農家には、自給的農家を含んでいる。)

林業については、地域内の町村の林野面積が102,344haで、県下総林野面積の11.8%を占めている。

また、民有林の比率は60.6%で、県平均の79.0%に比べ低くなっている。民有林のうち人工林の比率は、高根村以外の5町村で県平均の44.2%を上回っており、萩原町、下呂町では6割を上回っている。

(表-3)

表-3 林業の概要

行政 区域	林 野 面 積 (ha)				林 家 数 (戸)
	総 数	国 有 林	公 有 林	私 有 林	
萩 原 町	12,773	2,442	957	9,374	1,268
小 坂 町	24,086	16,111	723	7,252	454
下 呂 町	17,268	2,020	1,024	14,224	1,587
久々野町	9,488	1,493	979	7,016	625
朝 日 村	17,595	8,162	508	8,924	441
高 根 村	21,134	10,079	1,514	9,541	214
計	102,344	40,307	5,705	56,331	4,589
県 計	867,801	181,886	70,631	615,283	64,537

資料 平成8年度岐阜県林業統計書による。(林家数は、「1990世界農林業センサス・林業事業体調査」の結果による。)

## 2 工 業

この地域の事業所数は、県全体の1.5%にあたる332事業所、従業員数は3,344人で、県全体の1.3%となっている。また、年間製造品出荷額は532億円で、県全体の1.0%となっている。

この地域の1事業所あたりの平均従業員数は10.1人で、県平均の11.5人を1割程度下回っており、比較的規模の小さい事業所が多い。また、従業員1人あたりの年間製造品出荷額等も1,592万円で、県平均の2,200万円を3割程度下回っている。(表—4)

表—4 工業の概要

区分 行政区域	事業所数				従業者数(人)			年間製造品 出荷額等 (百万円)
	総数	会社	組合その他 の法人	個人	総数	常勤 労働者	個人事業 主及び家 族従業員	
萩原町	98	51	1	46	1,269	1,215	54	17,638
小坂町	40	15	1	24	303	269	34	5,601
下呂町	132	51	2	79	1,346	1,234	112	25,084
久々野町	37	19	2	16	311	—	—	4,011
朝日町	20	4	—	16	86	62	24	700
高根村	5	2	1	2	29	—	—	193
計	332	142	7	183	3,344	2,780	224	53,227
県計	22,088	8,687	168	13,233	254,028	233,504	20,524	5,588,762

資料 平成9年工業統計調査結果による。

### 3 商 業

商店数は685店舗で、県下総商店数の2.0%、年間販売額は714億円で、県全体の1.2%となっている。商店のうち卸売業の占める割合は11.8%で、県平均の23.4%を大きく下回っている。

従業員1人あたりの年間販売額は2,242万円で、県平均の3,284万円を大きく下回っており、小坂町及び朝日村では県平均の約3割となっている。

(表—5)

表—5 商業の概要

行政 区域	商 店 数			従 業 者 数 (人)	年 間 販 売 額 (百万円)
	総 数	卸 売 業	小 売 業		
萩 原 町	204	29	175	930	21,697
小 坂 町	76	8	68	333	3,818
下 呂 町	292	40	252	1,551	40,329
久 々 野 町	70	3	67	243	3,920
朝 日 村	33	1	32	107	1,330
高 根 村	10	—	10	22	323
計	685	81	604	3,186	71,417
県 計	34,890	8,163	26,727	185,791	6,100,767

資料 平成6年商業統計調査結果による。(代理商・仲立業を除く。)

# 各 論

# I 地形分類

## 1 地形概説

日本列島はユーラシア大陸の縁辺部に位置し、プレート論的観点からは太平洋プレート・フィリピンプレートとアジアプレートとの会合部に位置する弧状列島からなっている。このような地殻運動の特徴を反映して、東北地方から中部地方を経て近畿地方北部に至る地域では、応力場的にはほぼ東西の最大圧縮応力場に位置し、これを反映して南北方向に軸をもつ曲隆と曲降運動による大地形が規則的に配列・分布している。この大地形を骨格として、中・小地形がこれに付随する形で、分布するという特徴をしめしている。それ故、個々の山地の尾根や河谷などの地形にも、その配列や分布に規則性が認められる。これらの曲隆・曲降運動の波長は、約70~100kmのひろがりをもっている。

中部地方のような東西圧縮応力場の環境下では、曲隆・曲降運動の進展に伴って、傾斜の変換点の区域には帯状に応力が集中し、歪みの蓄積のために逆断層が多発し、曲隆部の地塊を一層隆起させ、断層山地が形成される。それ故に、曲隆部と曲降部との境には南北方向の逆断層が認められる場合が多い。当然のことながら、これらの逆断層と共役関係にある副断層が、これにほぼ直交・斜交状に発生している場合も多い。

また、このような応力場に急激な圧縮応力が加わる環境下では、応力軸に斜交する剪断応力性の断層と考えられる横ずれ断層が多発するようになる。このために、中部地方においては、北東~南西、北西~南東方向のA級活動度の横ずれ逆断層も卓越している。

以上のように、地殻運動の特徴を反映させて、中部地方における断層運動は、大局的には南北方向、東西方向、北東~南西方向、北西~南東方向への断層系として捉えることができる。上述した曲隆・曲降性の大地形は、これらの断層運動の運動形態を反映させて山脈状・山塊状に細分される。

日本アルプスの東縁に位置する糸魚川-静岡線以西の中部地方から中国地方東部にかけての地域は、藤田(1980)が指摘しているように、東高西低の

曲隆と曲降運動をくり返した傾動地塊からなるといわれている。本図幅地域は、このうちの富山平野から伊勢湾に至る曲降性の地域内に位置する山地、飛驒山地（飛驒高原）内の南飛驒地域にあたる山地内に位置している。この富山平野から伊勢湾に至る曲降性の地域内に位置する山地は、全体的には北高南低の定高性の壮年期山地を形成しながら、飛驒山地・美濃山地（美濃高原）・三河山地（三河高原）を経て、伊勢湾に至るといふ地形環境下にあるといえる。

位山分水嶺山地より北側に位置する北飛驒の山地を飛驒山地と呼び、位山分水嶺山地より南側の南飛驒に位置する山地が美濃山地であり、その南部の屏風山断層崖を境に三河山地へと連続している。

飛驒山地は、標高1000m～1500mに定高性の頂稜部が広く分布する中山性山地からなり、古くから標高1000m、1300m、1500mに3段の侵蝕平坦面が存在するといわれてきた。これらの侵蝕面を連ねた地形面が前輪廻の隆起準平原面である。これを反映させて、飛驒山地は東・西両側に位置する飛驒山脈・両白山地に比べて、穏やかな早壮年期の地形景観を呈している。

南飛驒から東濃・中濃地域にかけての美濃山地は、標高1000m内外の定高性の山地からなっている。美濃山地の東部は阿寺断層崖によって、阿寺山地に細区分されている。本図幅内の御嶽山(3068m)は、阿寺山地の北端部に位置している。御嶽山は阿寺山地を基盤として形成された第四紀の火山であるが、火山本体の高さは約1000mであるといわれている。

本図幅内の山稜や河谷は、上述したように、中部地方の地殻運動や断層運動の特徴を反映して、全体的には北西～南東、北東～南西、南～北及び東～西方向に配列・連続する特徴を有している。これらの断層運動には、横ズレ変位が卓越していて、北西～南東走向の断層例が、本図幅内の地形にも影響を与えている左横ズレ逆断層の阿寺断層系の断層であり、北東～南西走向の断層例が、跡津川断層系に代表されるような右横ズレ逆断層である。

これらの横ずれ断層は、地震災害的には危険度がA級の活断層であり、従って、本図幅内には活断層起因の断層地形やこれに類似する断層地形及び活断



層を推定させる地形的リニアメントが卓越してる。

このような活断層運動や地殻運動を反映して、飛騨川水系はこれらの方向性を局部局部では示しながらも、全体的には御嶽山を取り囲むように流れる特徴的な水系網を示している。本図幅内には飛騨川水系のこれらの特徴をあらわす一端が示されている。

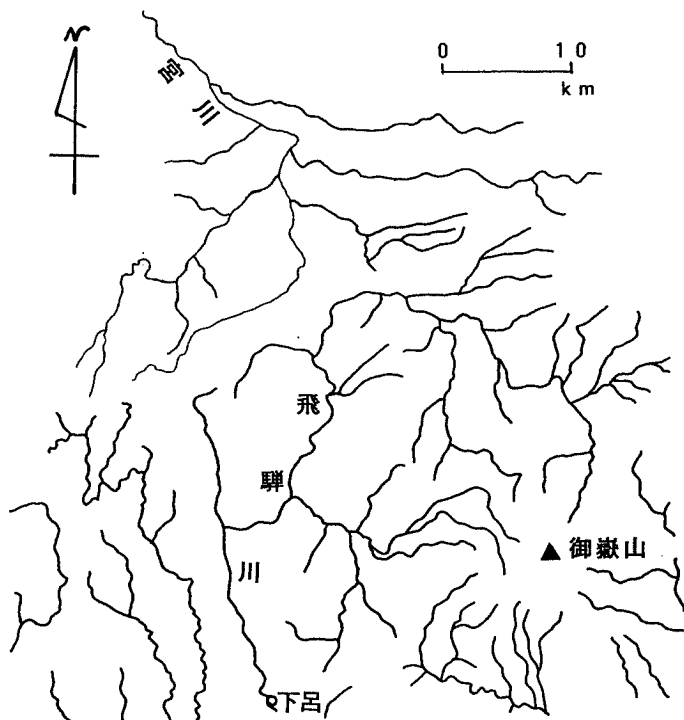


図1 飛騨川水系と宮川水系の概略図

1 / 20万地勢図から飛騨川上流部と宮川上流部に係わる水系網を抽出したのが、図1であるが、これからも明らかなように、源流部で北流している飛騨川は位山分水嶺山地に接して、その流向を南西、南東方向などに変え、下呂方向に流出するという特徴的な水系網を形成している。飛騨川、宮川の

両河川の水系網をみる限りにおいても、飛騨川がかつては北流し、現在の宮川に流入していたことを推定させる。このことは古飛騨川の堆積物とされている大円礫からなる松原礫層が、位山分水嶺山地を越えて堆積している地質的事実からも推定することができる。

ここで扱う台地は、河谷沿いに発達している第四紀、更新世、中・後期の河岸段丘地形からなる台地とする。本図幅には木曾川水系の最大支流である飛騨川水系の河岸段丘地形の一部が位置している。飛騨川本流の源流域から上流域の地域には、形態的には4段以上の河岸段丘が識別できる。しかし、久々野より下流の飛騨川本流には例えば「中山七里」など、その規模に違いはあるものの、先行性河川部にあたる狭窄部（峡谷）を形成して流れる区域が、複数存在していることもあり、狭窄部と狭窄部とのそれぞれの区間で、河岸段丘の分布に変化が認められ、編年や流域全体を通しての対比に問題も残るが、本図幅においては、段丘地形面の河床からの高度（比高）や、その保存状態、段丘礫層の風化度に着目すると、これらの段丘は下位段丘中の上下2段の河岸段丘からなるといえるので、ここでは、これらのうちの上位の河岸段丘を「U<sub>1</sub>段丘」とし、これより低い河岸段丘を「U<sub>2</sub>段丘」として、記述した。

## 2 山 地

日本アルプスから中国地方東部にかけての地域は、大局的には曲隆・曲降の連続する地盤運動からなる地域であり、地形もこれらの地盤運動や地質構造の影響を受けている。本図幅の山地は、富山湾から伊勢湾に至る曲降部にあたる地域に位置する山地、位山分水嶺山地の南に位置する美濃山地からなりたっている。中部地方の断層運動の特徴を反映して、山地の地塊化は進行し、山稜線の方向や山地内の河谷の流向は、全体的には北西～南東、北東～南西及び南～北方向が卓越する分布的特徴を有する。このために、本図幅内の山地を、これらの河谷によって区分し、小山塊に細分することとした。

本図幅内の山地を、ここでは、便宜的に、位山分水嶺山地（I a）、阿寺山地（I b）、乗鞍火山山地（I c）に細分した。

### (1) 位山分水嶺山地 (Ia)

位山分水嶺山地は、北側を江名子断層と南側を宮峠断層とによって境された地壘状山地であり、鷲ヶ岳(1672m)・烏帽子岳(1625m)・川上岳(1626m)・位山(1529m)などからなる山地である。行政的には北飛驒と南飛驒との境界を形成しているものの、地形的・気候的には飛驒と美濃との分水嶺を形成している山地である。地形的には日本海側と太平洋側との地形界を、気候的には日本海型気候と太平洋型気候との気候界を形成している。

本図幅の北西端の飛驒川右岸には本山地の南部の一部が位置している。

### (2) 阿寺山地 (Ib)

南飛驒から東濃・中濃地域にかけての美濃山地は、標高1000m内外の定高性の山地からなるが、北西から南東方向へ走る阿寺断層崖によって、その東側の阿寺山地と二つ森山地・佐見山地に細分することとした。阿寺山地は、御嶽山(3063.4m)を最高峰に、小秀山(1982m)などの定高性の山稜線が、北西～南東方向に連なる山地である。細かくみると、阿寺山地には、1400m～1700m面と、900m～1200m面の平坦面が分布している。

阿寺山地をはじめ二つ森山地や佐見山地内の河谷は、阿寺断層系の断層とこれに共役関係の断層によって、北西から南東方向と、北東から南西方向との顕著な2方向性をもつ特徴的な規則性を示している。本図幅にもこれらの特徴的な規則性は認められる。

### (3) 乗鞍火山山地 (Ic)

乗鞍火山は剣ヶ峰(3026m)を最高峰とする南北稜の3000m級の火山であるが、乗鞍火山の山体は北から烏帽子火山体、鶴ヶ池火山体、権現池火山体の3火山体からなるといわれ、これらの火山体がそれぞれ「古期成層火山」とその上のにる「新期噴出物」からなるといわれている。しかし、基盤岩の高度は高く、稜線部では2300m～2400mにも達しており、噴出物そのものは比較的薄いといわれている。一般的に乗鞍火山の噴出物は溶岩

が大部分で、火砕流物質は非常に少ないといわれている。

本図幅の北東端には、乗鞍火山山地の南端部が位置している。

### 3 台地

上述したように、ここで扱う台地は、飛騨川河谷沿いに発達している第四紀、更新世、中・後期の河岸段丘地形からなる台地である。本図幅には、下位段丘（U<sub>1</sub>段丘）中の、形成時期の異なる、上位の「U<sub>12</sub>段丘」と、それより低い「U<sub>13</sub>段丘」との、2段の河岸段丘からなる砂礫台地が分布している。

ここでは、便宜的に、小坂・小坂川河岸段丘台地（Ⅱa）、秋神川河岸段丘台地（Ⅱb）に細分した。

#### (1) 小坂・小坂川河岸段丘台地（Ⅱa）

この台地は、地形的には飛騨川本流河谷沿いと支流の小坂川の河谷沿いに分布する下位段丘（U<sub>1</sub>段丘）中の上位の「U<sub>12</sub>段丘」と、それより低い「U<sub>13</sub>段丘」との2段の河岸段丘からなる砂礫台地である。

#### (2) 秋神川河岸段丘台地（Ⅱb）

この台地は、飛騨川本流沿いの秋神貯水池より、上流部の秋神川河谷沿いに分布する、下位河岸段丘（U<sub>1</sub>段丘）中の、下位の「U<sub>13</sub>段丘」からなる砂礫台地である。本台地は、飛騨川本流沿いの河岸段丘からなる砂礫台地で処理することも可能であるが、秋神貯水池付近のような峡谷部によって、下流方向からの段丘分布が遮断されているので、ここでは、独立させて処理した。

### 4 参考文献

藤田和夫(1983)：日本の山地形成論、466p.、蒼樹書房

山田直利・足立守・梶田澄雄・原山智・山崎晴雄・豊遥秋(1985)：

高山地域の地質、地域地質研究報告、5万分の1図幅、111p、  
地質調査所

## Ⅱ 表層地質

### 1 表層地質概説

本図幅地域におけるおもな地質要素は、中央部より西側の大部分の地域を占める火山性岩石の「濃飛流紋岩」と北東部を占める固結堆積物の「美濃帯中・古生層」であり、それらを覆って御嶽火山噴出物や鈴蘭高原玄武岩、丹生川火砕流堆積物などの火山性岩石と未固結堆積物が分布する。

本図幅内における最古の地質要素は古生代末期～中生代初期に形成された「美濃帯中・古生層」である。その構成岩石は砂岩を主体として、チャート、泥岩、砂岩泥岩互層などが複雑に混ざりあって分布する。

「美濃帯中・古生層」を覆って「濃飛流紋岩」が広大な面積を占めて分布する。この岩体は中生代の末期に激しい火山活動によって形成された巨大な火山岩体であり、おもに流紋岩質～流紋デイサイト質の堅固な溶結凝灰岩からなり、非溶結の火山性岩石をはさみ、ほぼ同時期に形成された深成岩の花崗斑岩を密接にともなう。

鈴蘭高原玄武岩や丹生川火砕流堆積物は新第三紀鮮新世末期から第四紀にかけての時期、御嶽火山噴出物は第四紀にそれぞれ形成されたものである。

### 2 地層地質細説

#### (1) 未固結堆積物

##### a) 礫がち堆積物(g1)

飛驒川や小坂川などの比較的規模の大きい河川およびそれらの支流を埋めて分布する沖積層である。ほとんどが耕作地や宅地に改変されており、段丘堆積物や崩積堆積物とともに山間部における重要な生活の場を提供している。

##### b) 礫がち堆積物(g2)

比較的規模の大きい河川においてはおもに段丘堆積物、それらの支流・支

谷においてはおもに崩積堆積物である。前者では亜円礫～円礫から、後者では亜角礫～亜円礫からそれぞれなり、場所によっては両者の区別が明瞭につかない場合もある。

## (2) 固結堆積物

### a) 砂およびシルト・粘土(sc)

図幅北東部の御嶽山北麓に分布し、御嶽火山の噴出物にはさまれる湖成堆積物である。おもに凝灰質砂層や角礫をふくむシルト層や粘土層からなる。

## (3) 火山性岩石

### a) 砂岩(ss)

図幅内の美濃帯中・古生層としては最も広い分布を示し、北東部にまとまって分布する。全体として塊状の砂岩を優勢とし、しばしば泥質岩の岩片をふくむ。新鮮な部分は灰色～灰青色を呈して堅固な岩石であるが、風化が進むと黄褐色となり、脆くなることが多い。何ヶ所かで礫岩をはさむ。

### b) チャート(ch)

美濃帯中・古生層の砂岩に挟まれるように帯状あるいはレンズ状に分布する。いわゆるチャートのほかに珩質粘土岩や珩質頁岩などもこれに含む。極めて堅固な岩石であり、風化に強いいため急峻な地形をなすことが多いが、数cmの幅で層をなし、小規模な褶曲をともなうことが多く、全体にわたり均質な堅固な岩体を形成しているわけではない。

### c) 泥質岩(sh)

図幅北東部の限られた地域に分布するにすぎない。黒色塊状のものやシルト質のものなどが細粒砂岩などをともなって分布する。風化が進むと剥離性に富む岩石となる。

d)砂岩泥岩互層(alt)

図幅北東部の限られた地域に帯状に分布する。もともとは十数cm単位で砂岩と泥岩が互層をなしていたものが破碎され、砂岩がブロック状あるいはレンズ状になり、泥岩が鱗片状に剥離性を持つようになったもので、全体に脆くなっている。

e)メラングジュ(m)

図幅の西部において濃飛流紋岩中に巨大岩塊として分布する。泥質の基質中に砂岩、チャートなどの岩塊が大小様々に雑然と入っており、これらの岩石が海底地滑りなどで崩壊して再堆積したものと考えられている。本来は堅固な岩石であるが、弱い剥離性をもつ。

f)玄武岩質岩石(sch)

図幅北東部のきわめて限られた地域にレンズ状に分布する。溶岩あるいは火砕岩からなり、強く変質作用を受けている。

(4) 深 成 岩

a)安山岩質岩石(A)

御嶽火山および地藏峠火山岩類の噴出物である。

御嶽火山は、第四紀になって形成された中部地方有数の火山体であり、大きく古期御嶽火山と新时期御嶽火山に分けられている。いずれも安山岩質の溶岩と火砕岩を主体とするため、ここではまとめて安山岩質岩石としてあつかうが、山頂付近などの一部にデイサイト質や流紋岩質の岩石をともなう。これらのうち溶岩や溶結した火砕岩は堅固な岩石として分布するが、非溶結の火砕物にはやわらかいものも含まれ、それらが幾重にも重なって分布しているため、全体としては堅固な岩石として表現してある。

地藏峠火山岩類は、御嶽火山の北東～東側に分布する鮮新世末期の火山岩類で、その一部が図幅北東端部に分布する。安山岩質の火砕岩や溶岩からなり、火砕岩はおもに比較的固結度のよい凝灰角礫岩や火山礫凝灰岩からなる。

#### b)玄武岩質岩石(Ba)

図幅の北部にあたる鈴蘭高原地域にまとまって分布するほか、その周辺に点在して分布する。おもに流動性のよい玄武岩質溶岩からなることを反映して、緩傾斜の高原を形成している。岩石は堅固であり、板状節理や柱状節理がしばしばみられる。

#### c)デイサイト質岩石(D)

図幅の北東部に比較的まとまって分布するほか、北部の玄武岩質岩石の下位にわずかに分布する。また、南部にも小規模な岩体が分布する。北東部と北部に分布するものは鮮新世末期の丹生川火砕流堆積物にあたり、南部のものは第四紀の岩脈である。

丹生川火砕流堆積物は本図幅地域よりも北方に広く分布し、その南限にあたる。おもに両輝石デイサイト質溶結凝灰岩からなり、一部に非溶結部をともなう。非溶結部ではやや固結度が弱いのが、全体として堅固な岩石からなる。

南部の岩脈は、丹生川火砕流堆積物とは形成時期も岩質も異なり、黒雲母デイサイト質岩脈からなる。緻密で堅固な岩石からなる。

#### d)流紋岩質岩石(溶結)(Ry1)

濃飛流紋岩の主体をなす岩相であり、図幅内の濃飛流紋岩分布域にひろく分布する。石英、斜長石、カリ長石の結晶片を多量に含み、少量の苦鉄質鉱物をともなう流紋岩質～流紋デイサイト質の溶結凝灰岩からなる。岩相や岩質の相違から5枚の溶結凝灰岩層に区分され、全体に堅硬である。

#### e)流紋岩質岩石(非溶結)(Ry2)

濃飛流紋岩のうち溶結凝灰岩層をのぞく火山性碎屑岩に相当し、図幅の西部にやや広く分布するほかは、溶結凝灰岩に挟まれて帯状に分布する。

図幅の西部に分布するものはおもに流紋岩質で非溶結の凝灰角礫岩～火山礫凝灰岩からなり、美濃帯の構成岩石や濃飛流紋岩由来の類質岩片を多量に含み、きわめて岩相変化に富む。帯状に分布するものはおもに凝灰質砂岩・



泥岩，結晶凝灰岩などからなり，これらも岩相変化が著しい．全体に堅硬である．

## (5) 深成岩

### a)花崗斑岩(Gp)

濃飛流紋岩に密接にともなわれる貫入岩類であり，花崗斑岩と花崗閃緑斑岩にわけられ，いずれも堅硬な岩石として産する．

花崗斑岩は，図幅内の各所に小規模な岩脈として分布するが，とりわけ図幅の南東部で小規模な岩体が北東－南西方向に走る岩脈群を形成している．カリ長石の斑状結晶をともない，微晶質の基質をもつ．

花崗閃緑斑岩は，図幅の西部と中央部付近に比較的大きな岩体として分布する．カリ長石・石英・斜長石の斑状結晶をともない，花崗斑岩にくらべると黒雲母や角閃石などの苦鉄質鉱物を多く含み，基質は全体に完晶質である．

### b)花崗岩(Gr)

図幅の北部に径500mほどの小岩体として分布するだけである．おもに中粒の黒雲母花崗閃緑岩からなるが，露出状況が悪く，詳細は不明である．

## 3 資 料

下記の資料に詳しい．

山田直利・小林武彦(1988) 御嶽山地域の地質．地域地質研究報告(5万分の1地質図幅)，地質調査所，136P．

竹内 誠・中野 俊・原山 智・大塚 勉(1998) 木曾福島地域の地質．地域地質研究報告(5万分の1地質図幅)，地質調査所，94P．

凡 例 Legend

Unconsolidated sediments	未 固堆 結積 物	g 1	礫がち堆積物 (沖積層) Gravel-rich sediments
		g 2	礫がち堆積物 (段丘および崩積堆積物) Gravel-rich sediments
Semi-consolidated sediments	半堆 固積 結物	sc	砂およびシルト・粘土 Sand, silt and clay
		ss	砂岩 (礫岩を含む) Sandstone with conglomerate
Consolidated Sediments	固 結 堆 積 物	ch	チャート (珪質泥岩を含む) Chert with siliceous mudstone
		sh	泥質岩 Argillaceous rocks
		alt	砂岩泥岩互層 Alternating beds of sandstone and mudstone
		m	メランジ (泥質岩・砂岩・チャート等の混合岩) Melange
		sch	玄武岩質岩石 Basaltic rocks
Volcanic rocks	火 山 性 岩 石	A	安山岩質岩石 Andesitic rocks
		Ba	玄武岩質岩石 Basaltic rocks
		D	デイサイト質岩石 Dacitic rocks
		Ry1	流紋岩質岩石 (溶結) Rhyolitic rock (welding)
		Ry2	流紋岩質岩石 (非溶結) Rhyolitic rocks (no welding)
Plutonic rocks	深 成 岩	Gr	花崗岩質岩石 Granitic rocks
		Gp	花崗斑岩 Granite porphyry

岩石の種類の境界  
Boundary of rocks

走向および傾斜  
Strike and dip

断層  
Fault

	時	M	中生代	Mesozoic
		T n		Neogene Tertiary
Age		D	洪積世	Diluvium
	代	A	沖積世	Allvium
	岩片	a	はなはだやわらかい	Very soft
		b	やわらかい	Soft
Hardness of	の	c	やややわらかい	Less soft
rock materials	か	d	ややかたい	Less hard
	た	e	かたい	Hard
	さ	f	はなはだかたい	Very hard
	岩体	1	はなはだやわらかい	Very soft
		2	やわらかい	Soft
Hardness of	の	3	やややわらかい	Less soft
rock masses	か	4	ややかたい	Less hard
	た	5	かたい	Hard
	さ	6	はなはだかたい	Very hard

# Ⅲ 土 壤

## 農 地 土 壤

### 1 地域の概要

本地域は、岐阜県の飛騨南東部に位置し、小坂町のほぼ全域、朝日村、高根村の南部、及び久々野町、萩原町の一部からなっており、東部は長野県と接している。

農地は、主に飛騨川とその支流の小坂川等の流域に分布している。土地利用状況は、大部分が山林、原野によって占められているため、耕地面積は少ない。

これら農地のうち、水田の大部分は地域内の河川沿いに分布し水稲が栽培され、また、畑地等は山麓傾斜地に分布しており野菜等が栽培されている。

農地土壌は地形、地勢がやや複雑で、8種類の土壌群が分布している。水田土壌は灰色低地土がほとんどであるが、他に多湿黒ボク土、黒ボクグライ土、グライ土、黄色土、泥炭土が散在している。畑地土壌は黒ボク土が主体となっており、他に黄色土、灰色低地土、褐色低地土が散在している。

### 2 土壌統群の分布

灰色低地土は域内で最も多く、特に礫質灰色低地土が主体で水田に利用されており、小坂町の一部にのみ細粒・中粗粒系が分布している。

黒ボク土は灰色低地土について多く、厚層腐植質、表層腐植質及び表層多腐植質が小坂町、高根村及び朝日村に分布し畑地に利用されている。

多湿黒ボク土、黒ボクグライ土は小坂町の水田に、また、泥炭土は高根村と小坂町の一部に水田として利用されている。

黄色土は礫質黄色土が高根村の畑地に、細粒黄色土が小坂町の一部水田に利用されている。

褐色低地土は中粗粒褐色低地土と礫質褐色低地土が小坂町の一部畑地に利用されている。

### 3 土壤群別細説

#### (1) 灰色低地土(13)

土性は、強粘質・粘質・壤質・砂質で変化が大きい。土色は、ほぼ全層が灰色又は灰褐色を示す。沖積地帯に分布するが、グライ土に比べて地下水位が低く、排水が良く、腐植含量が少ない。この土壤は保肥力が強くて養分供給能に富み、高い水稲生産力を示し、本県の水田土壤としてはかなり特異的である。

#### (2) 黒ボク土(03,04,05)

土性は壤質～粘質、腐植含有量は富む～頗る富む。母材は火山噴出物からできた土壤で、保肥力は高いが、燐酸や塩基類に乏しい(03)。多潤黒ボク土(04)は台地凹部または沖積低地凹部に分布し、排水不良が加わる。黒ボクグライ土(05)は、多湿黒ボク土と同様にほぼ全層がグライ層で、下層にしばしば泥炭や黒泥が混在する。

#### (3) グライ土(14)

土性は強粘質・粘質・壤質・砂質で変化が大きい。土色は青灰色で、グライ層が現れる位置で細分化される。沖積地帯に分布し、地下水位は高く、排水は悪い。腐植含有量は概して少ない。

#### (4) 黄色土(10)

土性は強粘質～壤質、腐植含有量は少ない。土色は黄色味が強く、丘陵地斜面に分布し、強酸性で塩基類に乏しく、保肥力、養分供給力等に欠陥がある。

#### (5) 褐色低地土(12)

土性は強粘質・粘質・壤質・砂質と変化が大きい。土色は、ほぼ全層が褐色を示し、微高地に分布し、排水は良い。腐植含有量は少ない。

#### 4 町村別土壤総群面積一覧表 別紙

#### 5 資料

- (1) 岐阜県農業試験場(1976) 水田及び畑地土壤生産分級図 大野東部地域
- (2) 岐阜県農業試験場(1979) 地力保全基本調査総合成績書
- (3) 農業技術研究所化学部土壤第3科(1983) 農耕地土壤の分類－土壤統の設定基準及び土壤統表(第2次案改訂版)
- (4) 土壤保全調査事業全国協議会(1986) 土壤断面をどう見るか
- (5) 福富敏雄(1991) 岐阜県の耕地土壤の実態と改善対策

## 林 地 土 壤

この図幅は、図幅の最西端を北上する飛騨川の上流に位置し、御岳山を含む御岳火山山地と飛騨高原山地帯の南端にあたる地域である。また、岐阜県全体としては、県南部山地帯から飛騨高原山地帯へと地形や気候の変化するところにもあたる。

植生の垂直分布は、標高1,600mを境として、その下部がブナ帯に属する低山帯、上部が標高2,400m付近までコメツガ、トウヒ、シラベ、アオモリトドマツ等、針葉樹主体の亜高山帯である。また、標高2,400m以上は、ハイマツ低木林等の高山帯である。

土壌の分布を概説すると、高山帯では、高山性岩屑土壌とハイマツ林に未熟な乾性ポドゾル化土壌が出現する。亜高山帯では、緩やかな尾根稜線に湿性ポドゾル化土壌が出現し、起伏の小さい凹型斜面から台地面にかけて暗色系褐色森林土壌が出現する。また、稜線、尾根肩部、台地面が河谷に面する急斜面では、乾性ポドゾル化土壌の出現が多い。低山帯では、壮年期地形の様相で起伏量が大きく、河谷は石礫地が多い。全体的に褐色森林土壌が広範に出現するが、日和田高原等で黒色土壌も出現する。石礫地では、サワグルミ、トチノキ、カツラ等の溪畔林になっている箇所が多い。

本図幅に出現する土壌は、表-1の土壌統一覧表に示した6土壌群、10土壌統群に分けられる。なお、御岳山系にはガリーや河谷の浸食で崩壊した箇所が極めて多いが、これらは未熟土とした。

### 1. 岩石地

御岳火山山地には岩石地が広範に分布する。図示した主体は、山頂部にみられる裸地状態の岩石地である。この他、図示しなかったが亜高山帯の針葉樹林内、濃飛流紋岩類の谷沿い、凹型斜面に累石地がみられる。

### 2. 岩屑土

岩屑土は、高山性岩屑土壌として、森林限界以上の土壌化が進んでいない

裸地状態の箇所と高山帯の植生が出現するが土壤生成の乏しい箇所を図示した。植生は、ガンコウラン、コイワカガミ、チングルマ、コメススキ、ミネズオウ等が報告されている。なお、火山砂礫地もこの中に含めた。

### 3. 未熟土

未熟土は、受触性の強い土壤を図示した。御岳山系のガリーや河谷の浸食で崩壊した箇所が主体である。

### 4. 黒ボク土

黒ボク土は、火山灰を母材とするもので、図幅北東部の日和田高原や秋神川中流部の山脚平担地に分布する。土壤型はほとんどがB<sub>1</sub><sub>p</sub>(d)型で、土層深はA層、B層とも厚い場合が多い。堅密度は、A層上部が軟、A層下部からB層が硬である。植生は、シラカンバやミズナラが上層を優占する。

### 5. 褐色森林土

褐色森林土は、4土壤統群を図示した。暗色系褐色森林土は、低山帯の主体をなすもので、御岳火山山地では分布が少ない。乾性褐色森林土は尾根稜線部に、湿性褐色森林土は露出岩や転石の多い谷沿いの崩積地に、褐色森林土は尾根鞍部から山腹斜面にかけて分布する。暗色系褐色森林土は、主に亜高山帯の起伏の小さい凹型斜面から台地面にかけて分布する。

なお、この図幅は、県南部山地帯から飛騨高原山地帯へと変化するところに当たる。飛騨高原山地帯は県南部山地帯より寒冷で積雪量が多いので、土壤もその影響を受ける。そこで、同一母材であっても、山地帯の違いにより土壤統を区分した。

また、玄武岩で覆われた山地では、熱水風化母材によって生成された火山系暗赤色土壌やその影響を受けた土壌が所々に混在している。しかし、それら土壌の分布範囲を特定できないことから、これらは褐色森林土と混在区として統を区分した。



## (1) 乾性褐色森林土壌

乾性褐色森林土壌は、B<sub>A</sub>、B<sub>B</sub>、B<sub>C</sub>型土壌に相当するもので、主体はB<sub>B</sub>型土壌である。図幅には、笠置1統、高戸山1統、日和田1統、船山1統、御岳・乗鞍1統、小黒川1統の6統が分布するが、尾根稜線部に出現するのは土地生産力が低い。

植生は、図幅の南部地帯でコナラ、モミ、アカマツ等の針広混交林が多く、下層にネジキ、ソヨゴ、アセビ、ミツバツツジ、ヤマウルシ、リョウブ、ツクバネノキ、タカノツメ、シロモジ等がみられる。また、御岳火山山地帯および図幅の北部地帯では、ミズナラ、クリ、ホオノキ等の広葉樹林とそれらにツガ、ヒノキ、アカマツ、ヒメコマツが混交した針広混交林がみられる。林床にはササ類が特に多く、リョウブ、クロモジ、ヤマウルシ、バイカツツジ等もみられる。

### ① 笠置1統

濃飛流紋岩類を母材とするB<sub>B</sub>型土壌が主体で、尾根稜線部及び尾根肩部に分布する。A<sub>0</sub>層はFおよびH層が2cm程度堆積し、A層に菌糸を散見する場が多い。全層の土性は壤土が主体であるが、下層では砂質傾向が強い。

### ② 高戸山1統

花崗岩類を母材としたB<sub>B</sub>型土壌が主体で、尾根稜線や尾根肩部に分布する。A<sub>0</sub>層はF層を主体として厚い。A層は薄く粒状構造がみられる。土性は全層とも壤土が多いが、B層はやや砂質である。また、石礫は少なく全土層深が薄い。

### ③ 日和田1統

砂岩および泥岩とチャートを母材とするB<sub>B</sub>型土壌が主体である。A<sub>0</sub>層はF層が堆積する。土性は壤土であるが、砂質傾向にある。全土層深は薄く、下部に石礫が多い。土地生産力は他の統と比較してやや劣る。

#### ④ 船山 1 統

濃飛流紋岩類を母材とした $B_b$ 型土壤が主体で、尾根稜線や尾根肩部に分布する。母材は笠置 1 統と同様であるが、気候が変わってくることから統を区分した。笠置 1 統と比較して、 $A_o$ 層の F 層が厚く、A 層の腐植が多い。また、土性はやや埴質で、水湿状態は湿っている。

#### ⑤ 御岳・乗鞍 1 統

御岳火山岩類を母材とする $B_b$ 型土壤で、溶岩流でできた台地の肩やその周辺に広がる凸型急斜面に分布する。 $A_o$ 層は F 層および H 層が厚く堆積する。A 層は黒褐色で薄く、B 層は暗褐色で粒状構造が深部まで発達している。

#### ⑥ 小黒川 1 統

玄武岩で覆われた、標高 1,000~1,500m のゆるやかな尾根に分布する $B_b$ 型土壤が主体である。 $A_o$ 層は F 層がやや厚く堆積する。全層の土性は埴質で礫が少なく、B 層の堅密度は堅である。

なお、この統で図示した地域には、熱水風化母材によって生成された火山系暗赤色土の $vDR_b$ 型土壤が所々に分布する。 $vDR_b$ 型土壤は、A 層が赤褐色で薄く、B 層が暗赤色で厚い。また、土性は極めて埴質が強く、石礫は乏しい。

### (2) 褐色森林土壤

褐色森林土壤は、谷沿いから尾根鞍部にかけて凹型斜面および平衡斜面に出現する $B_b(d)$ 、 $B_b$ 型土壤に相当するもので、図幅には、笠置 2 統、高戸山 2 統、日和田 2 統、船山 2 統、御岳・乗鞍 2 統、小黒川 2 統の 6 統が分布する。

標高の高い山地で暗色系褐色森林土壤に接する地域は、 $A_o$ 層の F、H 層がやや厚く、A 層に多量の腐植を含む場合が多い。

植生は、御岳・乗鞍 2 統の地域で亜高山帯の針葉樹林から低山帯の広葉樹へ移行したところにおいて、サワグルミ、ミズナラ、カツラ、ウダイカンバ、

ヤマウルシ、ノリウツギ、ササ類等がみられる。その他は、コナラ、アカマツ、クリ、ホオノキ、トチノキ、サワグルミ、ウワミズザクラ、ダンコウバイ、クロモジ、ササ類等がみられる。

#### ① 笠置 2 統

濃飛流紋岩類を母材とする  $B_D(d)$ 、 $B_D$  型土壌が含まれる。A<sub>0</sub>層はH層が発達する。全層とも土性は壤土で、石礫が多い。土地生産力は他の統と比較して高い。

#### ② 高戸山 2 統

花崗岩類を母材として、山脚部に  $B_D$  型土壌、山腹から尾根にかけて  $B_D(d)$  型土壌が分布する。A<sub>0</sub>層はH層が発達する。A層は暗褐色で粒状構造や塊状構造が発達する。石礫は全層で少なく、土性は壤土から砂壤土である。B層以下の堅密度は堅でよく締まっている。

#### ③ 日和田 2 統

砂岩および泥岩とチャートを母材とする  $B_D(d)$ 、 $B_D$  型土壌が含まれる。A<sub>0</sub>層は標高の高い所でH層が厚く堆積する。土性は壤土で、石礫が多い。

#### ④ 船山 2 統

濃飛流紋岩類を母材とする  $B_D(d)$ 、 $B_D$  型土壌が含まれる。 $B_D(d)$  型土壌は、A<sub>0</sub>層のF層が発達し堅果状構造や塊状構造が発達する。土性は下層ほど埴質が強く、石礫が多い。土地生産力は笠置 2 統と同様、他の統より高く、土壌の水湿状態は笠置 2 統よりも良好である。

#### ⑤ 御岳・乗鞍 2 統

御岳火山岩類を母材とする  $B_D(d)$ 、 $B_D$  型土壌が含まれる。標高の高い山地では、暗色系褐色森林土壌に近い形態をしており、A<sub>0</sub>層はFおよびH層が厚く、土性は全層とも埴質な場合が多い。これより標高の低い台地面に接する

斜面では、A<sub>0</sub>層があまり厚くならず、A層は火山灰の影響で黒い色調が強い。

#### ⑥ 小黒川2統

玄武岩で覆われた山地に出現する土壤で、標高1,000～1,500mのゆるやかな尾根と緩斜面に分布するB<sub>0</sub>(d)型土壤が主体である。緩斜面に出現するものは、A層が腐植に富み塊状構造が発達する。また、全層とも埴質で、石礫含量が少ない。なお、この統で図示した地域には、小黒川1統と同様、火山系暗赤色土が所々に分布する。この土壤は、A<sub>0</sub>層が薄く、極めて埴質である。

#### (3) 湿性褐色森林土壤

湿性褐色森林土壤は、露出岩や転石の多い谷沿いの崩積地に分布するB<sub>E</sub>型の土壤が主体である。

A<sub>0</sub>層はH層が僅かに堆積する。A層は腐植に富む埴壤土で、還元色を呈したB層に漸変する。石礫は、A層が小中半角礫に富み、B層が中大半角礫に富む。植生は、サワグルミ、トチノキ、ヒノキ、サワラ等が多い。

#### (4) 暗色系褐色森林土壤

暗色系褐色森林土壤は、dB<sub>0</sub>、dB<sub>0</sub>(d)型土壤が主体である。

御岳火山山地帯では、原と呼ばれる台地状地形に広がる針葉樹林にみられる。これらの箇所は累石していることが多い。A<sub>0</sub>層はF層が厚く、その下部はH-A層になることが多い。A層は厚く、腐植に富み、塊状～団粒状構造が発達する。土性は、全土層が埴質で中大半角礫がすこぶる富んでいる。谷沿いに分布するものは下層が還元色を呈する。植生は、コメツガ、シラベ、アオモリトドマツ、ムシカリ、コミネカエデ、バイカツツジ等がみられる。

笠置および船山1～2統の分布する山地では、緩い尾根や谷頭に出現するA<sub>0</sub>層は前記の土壤と比較して薄く、土色も黄褐色が強い。植生はヒノキ、ウラジロモミ、ササ類、ノリウツギ等がみられる。

## 6. ポドゾル

ポドゾルは、寒冷地帯に出現する土壤で、乾性ポドゾル化土壤、湿性ポドゾル化土壤に区分される。また、湿性ポドゾル化土壤は溶説および集積の形態から鉄型と腐植型に細区分される。

この図幅地内では全てのタイプが出現するが、図化は乾性ポドゾル化土壤と湿性ポドゾル化土壤の2区分とした。

### (1) 乾性ポドゾル化土壤

乾性ポドゾル化土壤は、 $P_{D1}$ 、 $P_{D2}$ 、 $P_{D3}$ 型土壤に相当する。

高山帯のハイマツ低木林には、未熟な乾性ポドゾル化土壤がみられる。 $A_0$ 層は、厚いF層が堆積し、H層はA層と混入してH-A層になっていることが多い。石礫に富み、砂質土壤が多い。

濃飛流紋岩類の山地で、特に船山1・2統が分布している標高の高い山地では、支尾根や尾根肩部に多く分布する。 $A_0$ 層は、アスナロやメコマツ等針葉樹の落葉落枝が堆積する。全土層深が薄く、石礫に富んでいる。

植生は、ハイマツ低木林でハイマツ、タカネナナカマド、コケモモ、イワカガミ、ガンコウラン等がみられる。また、濃飛流紋岩類の山地では、上層をヒノキ、ツガ類、アスナロ、ヒメコマツ、ウラジロモミ等の針葉樹林が優占する場合が多く、下層にはタムシバ、リョウブ、クロモジ、アカミノイヌツゲ、ノリウツギ等がみられる。

### (2) 湿性ポドゾル化土壤

湿性ポドゾル化土壤は、 $P_{W(1)1}$ 、 $P_{W(1)2}$ 、 $P_{W(1)3}$ 、 $P_{W(h)1}$ 、 $P_{W(h)2}$ 、 $P_{W(h)3}$ 型土壤に相当し、標高が高い山地の緩い尾根に出現する。

腐植型は、主として御岳山の山麓に分布する亜高山帯の針葉樹林に出現する。鉄型は王滝三浦準平原から続く緩い尾根、図幅の北西部に分布する濃飛流紋岩類の山地に分類する。 $A_0$ 層はFおよびH層が厚く、A層上部は腐植含有量が多い。土性は、埴壤土が多く、石礫は中大半角礫に富む。植生は、コマツガ、シラバ、オオシラビソ等の針葉樹が多い。

表一 1 土壤統一覽表

土 壤 群	土 壤 統 群	土 壤 統	母 材	地 形
岩 石 地	岩 石 地	—	—	—
岩 屑 土	岩 屑 性 土 壤	—	—	—
未 熟 土	未 熟 土 壤	—	—	—
黒ボク土	黒ボク土壤	—	—	緩斜面
褐色森林土	乾性 褐色森林土壌	笠 置 1 統	濃飛流紋岩類	山地尾根
		高 戸 山 1 統	花崗岩類	山地尾根
		日 和 田 1 統	中生界堆積岩	山地尾根
		舟 山 1 統	濃飛流紋岩類	山地尾根
		御 岳・乗 鞍 1 統	安山岩類	台地の肩、尾根
		小 黒 川 1 統	玄武岩類	丸い尾根
	褐色森林土壌	笠 置 2 統	濃飛流紋岩類	山地斜面
		高 戸 山 2 統	花崗岩類	山地斜面
		日 和 田 2 統	中生界堆積岩	山地斜面
		舟 山 2 統	濃飛流紋岩類	山地斜面
御 岳・乗 鞍 2 統	安山岩類	山地斜面		
	小 黒 川 2 統	玄武岩類	緩斜面	
褐色森林土壌	湿性 褐色森林土壌	—	—	谷
	暗色性 褐色森林土壌	—	—	台地 山地丸い尾根下部
ポドゾル	乾性 ポドゾル化土壌	—	—	山地痩せ尾根
	湿性 ポドゾル化土壌	—	—	山地丸い尾根

## IV 土地利用現況

### 1 農 地

本図幅の西部を飛驒川が北から南に流れている。また、小坂川が図幅中央部を東から西に、秋神川が南から北に流れ、それぞれ飛驒川に合流している。

まとまった農地は少なく、地形的な制約もあり、これらの河川に沿ってほとんどの農地が分布している。

これらの農地では、夏に冷涼な気候を利用した高冷地野菜（ほうれんそう、スイートコーン）やトマトなどが栽培されている。

また、高根村においては肉用牛の繁殖、肥育が盛んとなっている。

### 2 林 地

本図幅内の全ての町村において、林地の占める面積率は県平均の林野率である87.0%を越えており、特に小坂町、朝日村、高根村では非常に高い割合となっている。

所有形態では、地域内の6町村で民有林の比率が60.6%となっており、県平均の79%より低くなっている。小坂町では国有林の比率が66.9%を占め、また朝日村、高根村においても高い割合を占めている。

林地の約半分は人工林で、図幅全体に分布しており、植生はスギ、ヒノキである。天然林の植生としては広葉樹がほとんどである。

本図幅内では、近年の県内に多いゴルフ場やスキー場などの開発は少なく、林業目的以外の目立った土地利用は見られない。

### 3 市街地・集落等

本図幅の西部を北から南に流れる飛驒川に沿って、国道41号とJR高山線が並行して走り、図幅中央部には県道441号が小黒川及び小坂川に沿って走っている。また、図幅西部には、県道437号が小坂川及び大洞川に沿って走っている。

集落は、これら鉄道や国道、県道に沿って点在している。このうち、J R 飛驒小坂駅周辺には、飛驒川を挟んで比較的大きな市街地が形成されている。



1999年3月

印刷発行

岐阜県土地分類基本調査

「御嶽山」「木曾福島」

発行 岐阜県企画部地域振興課

〒500-8570 岐阜市藪田南2-1-1

電話 (058) 272-1111

印刷 日新印刷株式会社

岐阜市蔵前2丁目3番1号